

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-058483

(43)Date of publication of application : 28.02.2003

(51)Int.Cl.

G06F 13/00

G06F 15/00

H04L 12/58

HO4M 11/00

(21)Application number : 2001-247792

(71)Applicant : YAFOO JAPAN CORP

(22)Date of filing : 17.08.2001

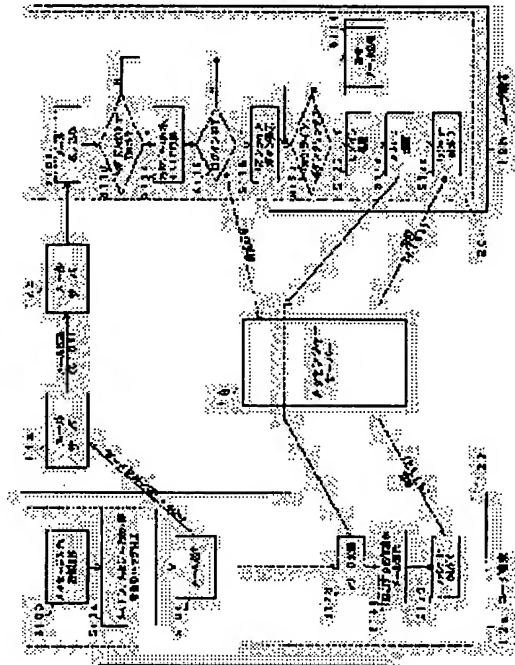
(72)Inventor : MORI HIROTAKE

(54) METHOD FOR PERFORMING COMMUNICATION BETWEEN USER TERMINALS BY USING E-MAIL SERVICE AND MESSENGER SERVICE, PROGRAM ALLOWING COMPUTER TO EXECUTE THE METHOD, RECORDING MEDIUM RECORDED WITH THE PROGRAM, SYSTEM FOR PERFORMING COMMUNICATION BETWEEN USER TERMINALS BY USING E-MAIL SERVICE AND MESSENGER SERVICE, AND SERVER SYSTEM USED IN THE SYSTEM AS MESSENGER SERVER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To attain communication having higher convenience by integrating e-mail service and messenger service.

SOLUTION: When a user A executes mail transmitting operation to a user B by using a user terminal 12a, mail ID, the messenger account of the user A, etc., are included in a header and transmitted (S100 to S104). When a user terminal 12b of the user B receives the mail, the mail ID and the messenger account of the user A are acquired from the header, and if the user A of the messenger account is logging in a messenger server 16, the user terminal 12a is informed of the mail ID through the server 16 (S108 to S124). Then interaction through the server 16 is attained between the user terminals 12a, 12b (S134).



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 27.03.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3675744

[Date of registration] 13.05.2005

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード [*] (参考)
G06F 13/00	650	G06F 13/00	650 B 5B085
15/00	310	15/00	310 A 5K030
H04L 12/58	100	H04L 12/58	100 Z 5K101
H04M 11/00	302	H04M 11/00	302

審査請求 有 請求項の数 9 O L (全10頁)

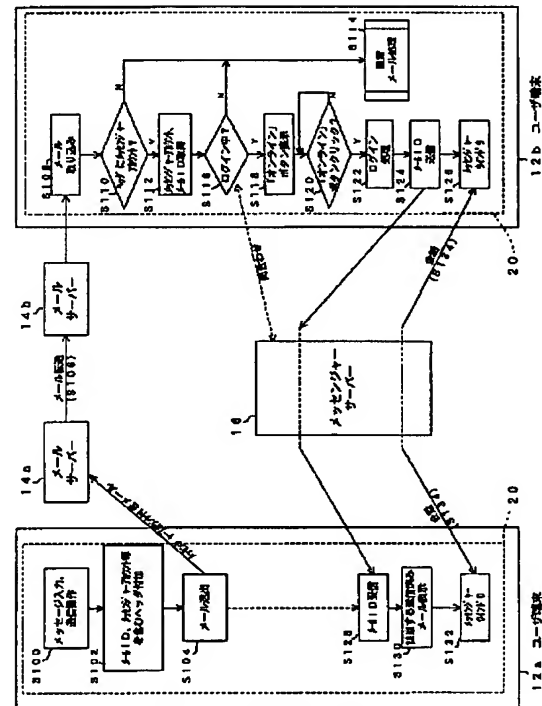
(21) 出願番号	特願2001-247792 (P 2001-247792)	(71) 出願人	500257300 ヤフー株式会社 東京都港区北青山3-6-7
(22) 出願日	平成13年8月17日(2001.8.17)	(72) 発明者	森 浩貴 東京都港区北青山3-6-7 ヤフー株式 会社内
		(74) 代理人	100071283 弁理士 一色 健輔 (外3名)
		F ターム(参考)	5B085 BA06 BC01 CA06 5K030 HA06 JT02 KA02 5K101 KK02 KK05 KK20 LL00 NN03 NN07 NN15 NN21 NN23 PP03

(54) 【発明の名称】 電子メールサービスとメッセージャーサービスとを利用してユーザ端末間で通信を行う方法、この方法をコンピュータに実行させるためのプログラム、このプログラムを記録した記録媒体、電子メ

(57) 【要約】

【課題】 電子メールサービスとメッセージャーサービスとを統合したより利便性の高い通信を可能とする。

【解決手段】 ユーザAのユーザ端末12aにてユーザB宛てのメール送信操作が行われると、ヘッダーにメールIDやユーザAのメッセージャーアカウント等が含まれて送信される(S100~S104)。ユーザBのユーザ端末12bでメールを受信すると、ヘッダーからメールIDおよびユーザAのメッセージャーアカウントが取得し、そのメッセージャーアカウントのユーザAがメッセージャーサーバー16にログイン中であれば、メールIDがメッセージャーサーバー16を経てユーザ端末12aへ通知される(S108~S124)。以後、ユーザ端末12a、12b間でメッセージャーサーバー16を介した会話が可能となる(S134)。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 電子メールサービスとメッセージャーサービスとを用いてユーザ端末間で通信を行う方法であつて、

所定のメールアドレス宛に送信された電子メールを受信するメール受信手順と、
該受信した電子メールに、メール送信者が前記メッセージャーサービスを利用するためのメッセージャーアカウントが付加されていればそのメッセージャーアカウントを取得するメッセージャーアカウント取得手順と、
前記メッセージャーサービスを提供するメッセージャーサーバーに対して、前記取得したメッセージャーアカウントのユーザが当該メッセージャーサーバーへログイン中であるか否かを問い合わせる問い合わせ手順と、
前記問い合わせにより、前記取得したメッセージャーアカウントのユーザがログイン中であると判別されれば、前記メッセージャーサーバーへログインし、前記メッセージャーサーバーを介して、前記取得したメッセージャーアカウントのユーザとのメッセージ交換を可能とするメッセージャー利用手順と、を含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】 請求項 1 記載の方法において、前記受信した電子メールに付加されたメール ID を取得する手順を更に含み、前記メッセージャー利用手順は、前記取得したメール ID を、前記メッセージャーサーバーを介して前記取得したメッセージャーアカウント宛に送信する手順を含むことを特徴とする。

【請求項 3】 電子メールサービスとメッセージャーサービスとを用いてユーザ端末間で通信を行う方法であつて、
メール送信者が前記メッセージャーサービスを利用するためのメッセージャーアカウントをメールに付加するアカウント付加手順と、
該メッセージャーアカウントが付加されたメールを、指定されたメールアドレス宛に送信する送信手順とを含むことを特徴とする方法。

【請求項 4】 請求項 3 記載の方法において、
前記送信手順で送信したメールを受信した他のユーザ端末から前記メッセージャーサーバーを介して送信されてきた当該メールに固有のメール ID を受信する手順と、
該受信したメール ID で特定される送信済みメールのメール本文を表示すると共に、前記他のユーザ端末との間で前記メッセージャーサーバーを介したメッセージ交換を可能とする手順と、をさらに含むことを特徴とする方法。

【請求項 5】 請求項 1 乃至 4 のうち何れか 1 項記載の方法をコンピュータに実行させるためのプログラム。

【請求項 6】 請求項 5 記載のプログラムを記録した記録媒体。

【請求項 7】 電子メールサービスとメッセージャーサ

ービスとを用いてユーザ端末間で通信を行う方法であつて、

送信側端末において、

メール送信者が前記メッセージャーサービスを利用するためのメッセージャーアカウントをメールに付加する手順と、

該メッセージャーアカウントが付加されたメールを指定されたメールアドレス宛に送信する手順とを実行し、
受信側端末において、

10 受信した電子メールに送信者のメッセージャーアカウントが付加されていればそのメッセージャーアカウントを取得する手順と、

前記メッセージャーサービスを提供するメッセージャーサーバーに対して、前記取得したメッセージャーアカウントのユーザが当該メッセージャーサーバーへログイン中であるか否かを問合わせる手順と、

前記問合せにより、前記取得したメッセージャーアカウントのユーザが前記メッセージャーサーバーへログイン中であると判別されれば、前記メッセージャーサーバーへのログイン処理を行い、前記メッセージャーサーバーを介して前記取得したメッセージャーアカウントのユーザとのメッセージ交換を可能とする手順とを実行することを特徴とする方法。

【請求項 8】 電子メールサービスと、メッセージャーサービスとを用いてユーザ端末間で通信を行うシステムであつて、

前記メッセージャーサービスを提供するメッセージャーサーバーと、

30 メール送信者が前記メッセージャーサービスを利用するためのメッセージャーアカウントを付加したメールを、指定されたメールアドレス宛に送信する手段を備える第 1 のユーザ端末と、

受信した電子メールに送信者のメッセージャーアカウントが付加されていればそのメッセージャーアカウントを取得する手段と、前記メッセージャーサーバーに対して、前記取得したメッセージャーアカウントのユーザが前記メッセージャーサーバーにログイン中であるか否かを問合わせる手段と、前記問合せにより、前記取得したメッセージャーアカウントのユーザがログイン中であると判別されれば、前記メッセージャーサーバーへのログイン処理を行い、前記メッセージャーサーバーを介して前記取得したメッセージャーアカウントのユーザとのメッセージ交換を可能とする手段とを含む第 2 のユーザ端末とを備えることを特徴とするシステム。

【請求項 9】 請求項 8 記載のシステムにおける前記メッセージャーサーバーとして用いられるサーバーシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

50 【発明の属する技術分野】 本発明は、電子メールサービ

スとメッセージサービスとを利用してユーザ端末間で通信を行う方法、この方法をコンピュータに実行させるためのプログラム、このプログラムを記録した記録媒体、電子メールサービスとメッセージサービスとを利用してユーザ端末間で通信を行うシステム、およびこのシステムでメッセージサーバーとして用いられるサーバーシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】近年、インターネットの急速な普及に伴って、オフィスの各個人や各家庭が所有するパソコン等の端末の大半がインターネット接続機能を有するようになっている。そして、インターネット接続機能を有する端末では電子メールの利用が可能である。

【0003】電子メールを送る場合、送信者はメールソフトを起動して、メッセージ本文を入力し、相手先のメールアドレスを指定したうえで送信操作を行う。すると、メールソフトはメッセージに所定のメールヘッダーを付加して、相手先メールアドレスを管轄するメールサーバーへ向けて送信する。相手先アドレスの端末では、同様にメールソフトを起動し、このメールソフトがメールサーバーへアクセスすることにより、当該アドレス宛に届いたメッセージを端末へ取り込んで表示させる。これにより、送信先のユーザは自分宛に届いたメールを閲覧することができる。

【0004】このように、電子メールでは、相手の端末へ直接メッセージを送ることができ、また、送信したメールはメールサーバーへ保存されるので、相手が不在のときにもメールを送ってもそのメールが消失することではなく、確実に相手にメールを届けることができる。これらの点で、電子メールは従来からの通信手段である電話やFAXに比べて格段に便利であり、こうした理由から、通信手段として電子メールが一般的に用いられるようになってきている。

【0005】しかし、上記のように、電子メールは、先ず、送信元端末から送信先のメールサーバーへ送られて保存され、送信先端末のメールソフトがメールサーバーへアクセスして保存されたメールを取り込むという仕組みであるため、メールの送信操作が行われてから、送信先の端末へメールが届くまでの間に一定の時間遅れが生ずる。すなわち、電子メールでは、リアルタイムのコミュニケーションを図るうえでは必ずしも好適ではない。

【0006】一方、最近では、メッセージサービスと呼ばれるサービスが普及しつつある。このメッセージサービスは、所定のメッセージサーバーへログインした複数のユーザ間でリアルタイムでのメッセージ交換（会話）が行えるというものである。すなわち、あるユーザのコンピュータ端末でメッセージを入力すると、そのメッセージが即時にログイン中の相手先ユーザのコンピュータ端末に表示されるのである。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】このように、メッセージサービスは電子メールの弱点であったリアルタイム性を補うものであり、両者を融合して利用できれば、より有効なコミュニケーションの手段が実現できると期待される。しかし、従来は、電子メールサービスとメッセージサービスとは別個独立に提供されており、両者を融合したサービスを行うことは考えられていなかった。

【0008】本発明は上記の点に鑑みてなされたものであり、電子メールサービスとメッセージサービスとを統合したより便利な通信を可能とすることを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記の目的は、請求項1に記載する如く、電子メールサービスとメッセージサービスとを用いてユーザ端末間で通信を行う方法であって、所定のメールアドレス宛に送信された電子メールを受信するメール受信手順と、該受信した電子メールに、メール送信者が前記メッセージサービスを利用するためのメッセージアカウントが付加されていればそのメッセージアカウントを取得するメッセージアカウント取得手順と、前記メッセージサービスを提供するメッセージサーバーに対して、前記取得したメッセージアカウントのユーザが当該メッセージサーバーへログイン中であるか否かを問い合わせる問い合わせ手順と、前記問い合わせにより、前記取得したメッセージアカウントのユーザがログイン中であると判別されれば、前記メッセージサーバーへのログイン処理を行い、前記メッセージサーバーを介して、前記取得したメッセージアカウントのユーザとのメッセージ交換を可能とするメッセージ利用手順と、を含むことを特徴とする。

【0010】請求項1記載の発明によれば、電子メールの受信側のユーザ端末において、当該電子メールに付加された送信者のメッセージアカウントが取得され、このメッセージアカウントに基づいて送信者がメッセージサーバーへログイン中であるか否かが判別される。そして、ログイン中であれば、メール送信者のユーザ端末との間でメッセージサーバーを介したメッセージ交換が可能となる。したがって、本発明によれば、電子メールの受信後、自動的にメール送信者との間でメッセージサービスを利用したメッセージ交換を行えることとなり、電子メールサービスとメッセージサービスとを統合した利便性の高い通信を実現できる。

【0011】また、請求項2に記載された発明は、請求項1記載の方法において、前記受信した電子メールに付加されたメールIDを取得する手順を更に含み、前記メッセージ利用手順は、前記取得したメールIDを、前記メッセージサーバーを介して前記取得したメッ

センジャーアカウント宛に送信する手順を含むことを特徴とする。

【0012】請求項2記載の発明によれば、電子メール送信者のメッセージャアカウント宛に、メッセージャサーバーを介して、受信者側からメールIDが通知されるので、送信者はどの送信済みメールに対して受信者から応答があったのかを特定することができる。

【0013】また、請求項3に記載された発明は、電子メールサービスとメッセージャサービスとを用いてユーザ端末間で通信を行う方法であって、メール送信者が前記メッセージャサービスを利用するためのメッセージャアカウントをメールに付加するアカウント付加手順と、該メッセージャアカウントが付加されたメールを、指定されたメールアドレス宛に送信する送信手順とを含むことを特徴とする。

【0014】また、請求項4に記載された発明は、請求項3記載の方法において、前記送信手順で送信したメールを受信した他のユーザ端末から前記メッセージャサーバーを介して送信されてきた当該メールに固有のメールIDを受信する手順と、該受信したメールIDで特定される送信済みメールのメール本文を表示すると共に、前記他のユーザ端末との間で前記メッセージャサーバーを介したメッセージ交換を可能とする手順と、をさらに含むことを特徴とする。

【0015】また、請求項5に記載された発明は、請求項1乃至4のうち何れか1項記載の方法をコンピュータに実行させるためのプログラムに係るものであり、請求項6に記載された発明は、このプログラムを記録した記録媒体に係るものである。

【0016】また、請求項7に記載された発明は、電子メールサービスとメッセージャサービスとを用いてユーザ端末間で通信を行う方法であって、送信側端末において、メール送信者が前記メッセージャサービスを利用するためのメッセージャアカウントをメールに付加する手順と、該メッセージャアカウントが付加されたメールを指定されたメールアドレス宛に送信する手順とを実行し、受信側端末において、受信した電子メールに送信者のメッセージャアカウントが付加されていればそのメッセージャアカウントを取得する手順と、前記メッセージャサービスを提供するメッセージャサーバーに対して、前記取得したメッセージャアカウントのユーザが当該メッセージャサーバーへログイン中であるか否かを問い合わせる手順と、前記問合せにより、前記取得したメッセージャアカウントのユーザが前記メッセージャサーバーへログイン中であると判別されれば、前記メッセージャサーバーへのログイン処理を行い、前記メッセージャサーバーを介して前記取得したメッセージャアカウントのユーザとのメッセージ交換を可能とする手順とを実行することを特徴とする。

【0017】また、請求項8に記載された発明は、電子

メールサービスと、メッセージャサービスとを用いてユーザ端末間で通信を行うシステムであって、前記メッセージャサービスを提供するメッセージャサーバーと、メール送信者が前記メッセージャサービスを利用するためのメッセージャアカウントを付加したメールを、指定されたメールアドレス宛に送信する手段を備える第1のユーザ端末と、受信した電子メールに送信者のメッセージャアカウントが付加されていればそのメッセージャアカウントを取得する手段と、前記メッセージャサーバーに対して、前記取得したメッセージャアカウントのユーザが前記メッセージャサーバーにログイン中であるか否かを問い合わせる手段と、前記問合せにより、前記取得したメッセージャアカウントのユーザがログイン中であると判別されれば、前記メッセージャサーバーへのログイン処理を行い、前記メッセージャサーバーを介して前記取得したメッセージャアカウントのユーザとのメッセージ交換を可能とする手段とを含む第2のユーザ端末とを備えることを特徴とする。

【0018】また請求項9に記載された発明は、請求項8記載のシステムにおける前記メッセージャサーバーとして用いられるサーバーシステムに係るものである。

【0019】

【発明の実施の形態】図1は、本発明の一実施形態であるシステムの全体構成図である。図1に示す如く、本実施形態において、インターネット10には多数のユーザ端末12が接続されている。また、インターネット10には、各ドメインを管轄するメールサーバー14や、メッセージャサービスを提供するメッセージャサーバー16等が接続されている。なお、ユーザ端末12は、パーソナルコンピュータ等のコンピュータ端末であってよく、あるいは、インターネット接続機能を有する携帯電話機やPDA等の携帯端末であってもよい。また、ユーザ端末12は企業等の組織内のLANを介してインターネット10に接続されていてもよく、その場合は、メールサーバー14が当該LAN上に設けられていてもよい。

【0020】先ず、メッセージャサービスの概要について説明する。メッセージャサービスを利用しようとするユーザは、予めメッセージャサーバー16にアクセスすること等によりユーザ登録を行い、メッセージャアカウントおよびパスワードを取得すると共に、メッセージャサービス専用のソフト（以下、メッセージャ用ソフトという）をダウンロードすること等により入手してインストールしておく。そして、ユーザ端末12においてこのメッセージャ用ソフトを起動すると、メッセージャサーバー16へアクセスが行われ、ユーザがメッセージャアカウントおよびパスワードを入力すると、メッセージャサーバー16はユーザ認証を行ったうえで、このユーザのログインを許可する。

【0021】メッセージャ用ソフトは、メッセージャ

10

20

30

40

50

ーサーバー 16 へのログインが許可されると、所定のプロトコルによりユーザ端末 12 とメッセージャーサーバー 16 との接続を確立し、以後、ログアウトが行われるまでこの接続を維持する。また、メッセージャーサーバー 16 は、各ログインユーザに固有のバッファメモリ領域を割り当てる。

【0022】メッセージャー用ソフトの表示画面では、他のユーザ宛のメッセージ送信操作を行うことができる。すなわち、送信先ユーザのメッセージャーアカウントを指定しメッセージを入力したうえで送信操作を行うと、このメッセージは即座にメッセージャーサーバー 16 へ送信され、送信元ユーザのバッファメモリ領域に書き込まれると共に、送信先ユーザがログイン中であれば、そのバッファメモリ領域にも同じメッセージが書き込まれる。各ユーザのバッファメモリ領域に書き込まれたメッセージは即座に当該ユーザのユーザ端末 14 へ送信されて表示される。したがって、送信先ユーザがログイン中であれば、あるユーザから送信されたメッセージは即座に送信先ユーザのユーザ端末 12 に表示されることとなり、ログイン中のユーザ間でリアルタイムのメッセージ交換すなわち会話を行うことができる。

【0023】本実施形態のシステムは、電子メールサービスと上記のメッセージャーサービスとを統合し、電子メールの送受信から、メッセージャーサービスによるメール送受信者間での会話へ移行することを可能とするものである。すなわち、本実施形態のシステムにおいては、あるユーザ A が他のユーザ B へ電子メールを送信した場合、この電子メールを受信したユーザ B のユーザ端末 12 に対してユーザ A がメッセージャーサーバー 16 へログイン中であるか否かが通知される。そして、ユーザ A がログイン中であれば、ユーザ B も自動的にメッセージャーサーバー 16 へログインすることで、メール送信者であるユーザ A との間でメッセージャーサービスを利用した会話を可能とするのである。

【0024】以下、本実施形態における処理の内容を、ユーザ A とユーザ B とが通信を行う場合を例にして図 2 を参照して具体的に説明する。なお、図 2 において、ユーザ A およびユーザ B のユーザ端末を夫々符号 12 a および 12 b で表し、また、ユーザ A およびユーザ B の夫々のメールアドレスを管轄するメールサーバーを符号 14 a および 14 b で表している。

【0025】図 2 に示す如く、ユーザ A のユーザ端末 12 a およびユーザ B のユーザ端末 12 b には、夫々、通信用プログラム 20 がインストールされている。通信用プログラム 20 は例えば CD-ROM、DVD-ROM、フロッピー（登録商標）ディスク等の可搬型記録媒体で提供されてユーザ端末 12 a、12 b にインストールされてもよいし、あるいは、インターネット 12 経由でユーザ端末 12 a、12 b にダウンロードされてインストールされることとしてもよい。

【0026】通信用プログラム 20 は、電子メールサービスを利用するためのメールソフトとしてのメール機能と、上記したメッセージャー用ソフトとしてのメッセージャー機能とを有している。通信用プログラム 20 が起動されると、そのメール機能により、通常のメールソフトと同様に、送受信メールの一覧や選択された受信メールの本文等を表示する表示欄や、メール作成メニュー等を含む電子メールウインドウが表示される。また、メッセージャー機能により、ユーザによるログイン操作に応じて、予め設定されたメッセージャーアカウントおよびパスワードを用いてメッセージャーサーバー 16 へのログイン処理が行われ、メッセージ表示欄等を含むメッセージャーウインドウが表示される。

【0027】ユーザ A はユーザ端末 12 a において通信用プログラム 20 を起動し、予め、メッセージャーサーバー 16 へログインしておくものとする。そして、電子メールウインドウにおいてメール作成メニューを選択し、宛先メールアドレスを指定してメール本文のメッセージを入力したうえで送信操作を行う（S100）。これに応じて、通信用プログラム 20 は、入力されたメール本文にメールヘッダーを付加する（S102）。このメールヘッダーには、通常の電子メールに含まれる送信元メールアドレス、宛先メールアドレス、メールに固有のメール ID 等のほか、ユーザ A のメッセージャーアカウントが含まれる。そして、メールヘッダーを付加したメールをメールサーバー 14 a 宛に送出する（S104）。メールサーバー 14 a は、送られてきたメールのヘッダーに含まれる宛先メールアドレスに従い、このメールをユーザ B のメールサーバー 14 b 宛に転送する（S106）。

【0028】一方、ユーザ B 側では、ユーザ端末 12 b にて通信用プログラム 20 が起動されると、メール機能により、メールサーバー 14 b へアクセスして、ユーザ B のメールアドレス宛のメールをユーザ端末 12 b へ取り込み、そのメール本文を表示させる（S108）。そして、取り込んだメールのヘッダーに送信者のメッセージャーアカウントが含まれているか否かを判別し（S110）、含まれていれば、メールヘッダーからメッセージャーアカウントおよびメール ID を取得する（S112）。一方、メッセージャーアカウントが含まれてなければ、以後、通常のメールソフトとしての処理を行う（S114）。本例の場合、送信元であるユーザ端末 12 a においてメールヘッダーにユーザ A のメッセージャーアカウントが含まれているから、S110 では肯定判別されることになる。

【0029】次に、メッセージャーサーバー 16 に対して、上記取得したメッセージャーアカウントのユーザ（すなわち電子メール送信者）がログイン中であるか否かを問い合わせる（S116）。問合せの結果、送信者がログイン中であれば、例えば画面に「オンライン」ボ

タンを表示させることなどにより、その旨をユーザ B へ知らせる (S118)。一方、メール送信者がログイン中でなければ、以後、通常のメールソフトの動作を行う (S114)。

【0030】図3は、この時点で、ユーザ B のユーザ端末 12b に表示される画面の例を示す。本例の場合は、メール送信者であるユーザ A はログイン中であるから、電子メールウインドウにおける受信メール本文の表示と共に、「オンライン」ボタンが表示されている。この画面において「オンライン」ボタンがクリックされると (S120)、メッセンジャーサーバー 16 へのログイン処理が行われる (S122)。そして、ログイン後、メール送信者のメッセンジャーアカウント宛に、受信したメールのメール ID を含むメール ID 通知メッセージが送信される (S124) と共に、メール送信者であるユーザ A とメッセンジャーサービスによる会話を行うためのメッセンジャーウインドウが表示される (S126)。

【0031】図4は、メッセンジャーウインドウが表示された表示画面の一例を示す。同図に示すように、受信した電子メールの内容と、送信元ユーザであるユーザ A との会話を行うメッセンジャーウインドウとが並べて表示される。

【0032】送信者であるユーザ A のユーザ端末 12a では、上記のメール ID 通知メッセージを受信すると (S128)、そのメール ID に該当する送信済みメールを読み出して表示させ (S130)、さらに、ユーザ B とメッセンジャーサービスによる会話を行うためのメッセンジャーウインドウを同じ画面上に表示させる (S132)。図5は、この表示画面の一例を示す。上記図4に示すユーザ端末 12b 側の画面と同様に、送信した電子メールの内容と、送信先ユーザであるユーザ B との会話を行うためのメッセンジャーウインドウとが並べて表示される。

【0033】以後、ユーザ A およびユーザ B は夫々のユーザ端末 12a、12b において、表示されたメールの内容を参照しながら、メッセンジャーウインドウにて互いに会話を行うことができる (S134)。なお、図4および図5に示されるメッセンジャーウインドウでは、下欄に相手方に対する発言を記入し、上欄には自分および相手方の発言が順次表示されるようになっている。

【0034】以上説明したように、本実施形態のシステムによれば、電子メール送信時に、メールヘッダーに送信者のメッセンジャーアカウントを含めることで、受信側において、受信メールのメールヘッダーから送信者のメッセンジャーアカウントを取得して、メッセンジャーサービスを利用して送信者にリアルタイムでメッセージを送ることができる。すなわち、電子メールが受信された後、通信用プログラム 20 の機能により自動的にメッセンジャーサーバー 16 にログインして、電子メール送

受信者間でメッセンジャーサービスによる会話を行うことが可能となる。このように、本実施形態によれば、電子メールサービスとメッセンジャーサービスを融合した利便性の高いユーザ端末間の通信を実現することができる。

【0035】また、ユーザ端末 12b で受信したメールのメールヘッダーに含まれるメール ID を、メッセンジャーサーバー 16 を介して送信側のユーザ端末 12a に通知し、ユーザ端末 12a にてそのメール ID に該当する送信済みメールの内容を表示させることで、送信側のユーザは、受信者から応答のあった電子メールの内容を確認しながら、メッセンジャーサーバー 16 を経由したメッセージ交換を行うことができる。

【0036】なお、上記実施形態では、ユーザ A が単一のユーザ B へ電子メールを送信し、ユーザ B がメール受信後、2 人のユーザ A、B 間でメッセンジャーサービスによる会話が行えるものとした。しかしながら、メッセンジャーサーバー 16 として、3 名以上のユーザ間での会話を可能とするサーバーを用いることにより、例えば、ユーザ A がメール送信先として複数のユーザ B、C、D を指定して電子メールを送信した場合にも、上記実施形態と同様にして、各メール受信者 B、C、D が送信者 A へメッセンジャーサーバー 16 を介してメール ID 通知メッセージを送ることにより、以後、ユーザ A、B、C、D 間での会話を行うことができる。3 名以上の多人数間でのメッセージ交換を電子メールで行うことは、煩雑であって時間もかかるが、メッセンジャーサービスを利用すれば、このような多人数間の会話も非常に円滑に行うことができる。したがって、あるユーザ A から送信された複数名宛での電子メールをきっかけにして、メッセンジャーサービスを利用した多人数間での会話を行えることは、極めて有用である。

【0037】

【発明の効果】本発明によれば、受信者側の端末で電子メールが受信された後、自動的にメール送受信者のユーザ端末間でメッセンジャーサービスを利用した会話が行えるようになり、電子メールサービスとメッセンジャーサービスを統合した利便性の高い通信を実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態であるシステムの全体構成図である。

【図2】本実施形態における処理の内容をユーザ A とユーザ B とが通信を行う場合を例にして示す図である。

【図3】メール受信者であるユーザ B のユーザ端末において送信者がメッセンジャーサーバーへログイン中であると判別された際の表示画面の一例を示す図である。

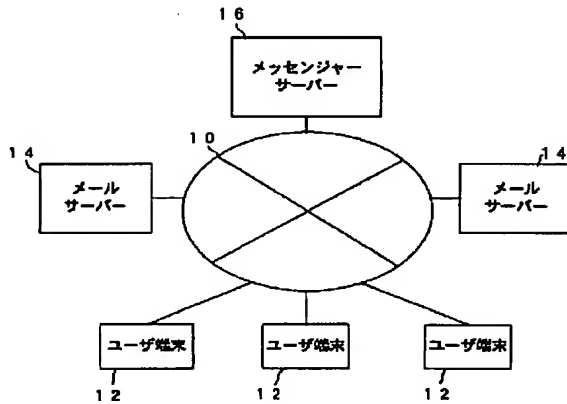
【図4】メール受信者であるユーザ B のユーザ端末においてメール送信者であるユーザ A との会話を行うためのメッセンジャーウインドウが表示された表示画面の一例を示す図である。

【図5】メール送信者であるユーザAのユーザ端末においてメール受信者であるユーザBのユーザ端末からメールIDが通知された際の表示画面の一例を示す図である。

【符号の説明】

10 インターネット
12, 12a, 12b ユーザ端末
14, 14a, 14b メールサーバー
16 メッセンジャーサーバー
20 通信用プログラム

【図1】



【図3】

電子メール	
<div>メッセージ一覧</div> <div>受信メール</div> <div>.....</div> <div>.....</div> <div>.....</div> <div>送信済みメール</div> <div>.....</div> <div>.....</div>	<div>受信メール</div> <div>送信者: ユーザA</div> <div>受信日時: 2000年8月4日 15:30</div> <div>件名: 来週の定例会議について</div> <div> Bさん。 こんにちは。..... </div>
<div>オンライン</div>	

[illegible]

電子メール	
メッセージ一覧	受信メール
受信メール	送信者: ユーザA
.....	受信日時: 2000年8月4日 15:30
.....	件名: 来週の定例会議について
.....	
送信済みメール	Bさん。
.....	こんにちは。.....
.....
.....	

メッセージ

TO: ユーザA

